

地域トピックス

◆心も体も温かな新年に(小友町)

市社会福祉協議会小友支部(佐々木定則支部長)は、年末年始を温かく迎えてほしいと、地域に住む80歳以上の高齢者に見舞い品として肌着を贈りました。

12月下旬、地区の民生委員らが対象となる150人の家を1軒1軒訪問。「これを着て風邪を引かないように、良い年をお迎えください」と話し手渡すと、受け取った松田昌隆さん・キヨウさん夫妻は「いつもありがとうございます」と笑顔で答えていました。



民生委員から見舞い品を受け取る松田さん夫妻

◆郷土の文化を受け継ぐ(上郷町)

上郷町地域づくり連絡協議会(佐々木善次郎会長)は、郷土の文化を掘り起こし、後の世代に受け継ごうと名所や旧跡に標柱を設置する活動を行っています。

12月1日、行政区長や地域住民など20人が集まり、暮坪地区にある日蓮を祭った「和野の祖師堂」や同地区などを開拓した「近江弥右衛門の墓」など3カ所に標柱を設置しました。

同会では本年度中に、町内の計52カ所に標柱を設置する予定です。



住民自らの手作業で名所・旧跡に標柱を設置



あてやかな浴衣姿の上郷町森の下さんさ踊り保存会の皆さん

◆郷土芸能継承のために

市郷土芸能発表会・郷土芸能フェスティバル2006が十一月二十六日、市民センター大ホールで開催されました。発表会は、昨年開催されたもので、郷土芸能の保存継承を図るため、市郷土芸能保存団体連絡協議会が主催しました。花巻市の早池峰嶽流石鳩岡神楽保存会をはじめ、神楽やしし踊り、南部ばやしなど十四団体が参加し、日ごろの練習の成果を広い舞台で思う存分に発表。宮守町の米田大神楽や綾織南部ばやしなど、地域の祭りで見ることができない郷土芸能も披露され、観客から大きな拍手が送られていました。



電灯の明かりを頼りにトンネル内を歩いて見学する参加者

◆水のトンネルを見学

平成二十二年の完成を目指して工事が進められている遠野第二ダムと洪水吐トンネルの建設現場見学会は十二月十二日に行われ、市民ら八十五人が参加しました。見学会では、貫通した洪水吐トンネルが公開され、参加者らは吐口側から第二ダム建設予定地までの約二キロを歩いて見学しました。綾織英子さん(遠野町)は「こんなに立派なトンネルができているとは知らず、びっくりしました」と話していました。

遠野第二ダムは来内川のはららんを防ぐ目的で建設。完成後は、増水した水を、洪水吐トンネルを通して本流の猿ヶ石川に流します。

◆華やかな舞台に拍手喝采

市地域婦人団体協議会主催の歳末助け合い演芸大会が十二月十日、市民センター大ホールで開催されました。各町から踊りやマジック、フアッシュンショーなどが披露され、手づくりの衣装や小道具など華やかな演出に、満員の客席から盛んな拍手が送られていました。家族で観賞した青笹町の菊池勝郎さんは「毎年楽しみにしています。踊りあり、笑いありで楽しかったです」と話していました。



綾織町婦協の皆さんの50年ぶりに復活した滝沢相撲甚句

まちの話題



巧みな花笠さばきを披露した土淵町婦協の皆さん

◆練習の成果を楽器に込めて

遠野小学校スクールバンドの発表会「第十一回にぎやかコンサート」は十二月二日、市民センター大ホールで開催されました。部長の竹越瑞稀さんが「練習を重ね、うまく音を出せるようになりました。みんなの心を一つにして素晴らしい曲に仕上げたい」とあいさつ。小学五・六年生の団員四十三人が、タッチのテーマ曲などを演奏し、会場を訪れた父母らに日ごろの練習の成果を元氣いっぱい披露しました。

また、日ごろ同バンドを指導している市民バンド「ニュー・リパティーズ」からも賛助出演し、コンサートに華を添えました。



元氣いっぱいの演奏を繰り広げたスクールバンドの児童たち

スポーツ ふるさとCM大賞で「ふるさと愛賞」受賞



ふるさとCMを制作した「遠野観光サポーター」の皆さん

ふるさとCM大賞 in IWATE 2006(岩手朝日テレビ主催)は11月26日、いわて県民情報センター(通称:アイーナ)で行われ、県内29の市町村が30秒の手作りCMでふるさと自慢を競いました。

本市からは、観光サポーター36人がおよそ1カ月かけて制作した「遠野の『十の物語』」を発表。市民歌に乗せて遠野の四季や出来事を表現した作品は、審査員の目に留まり、見事特別賞の「ふるさと愛賞」を受賞しました。本市の入賞は今回が初めてです。

この作品は、岩手朝日テレビのCMで年間50回放映されます。